



登壇目標
剛健進取
愛求真
自主獨立
社會有為

PTA会報 NO.195

2024.3.1

発行
北海道中標津高等学校PTA
北海道中標津町西6南5-1
電話 72-2059
FAX 72-2492

将来の夢を



PTA会長
西垣 努

厳しい冬が終わり、春の足音が近づいてきた本日、思い出の学び舎から一步を踏み出す第75期卒業生の皆さん、ご卒業まことにおめでとうございませう。また、保護者の皆様には、本日まで、お子様の成長を見守り、支えてこられましたことに深く敬意を表します。また、お忙しい中、PTA活動へのご協力をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、卒業生の皆さんは、本日からそれぞれの道、目標に向かって新しい一步を踏み出すこととなります。進学をし、さらに学業を極める人、就職をし、社会人として仕事に携わる人とそれぞれの道へ別れることに

なり、不安な思いをしているかと思いますが、皆さんが本校で学んだことをしっかりと心に刻み、行動すれば、すぐに新しい環境に打ち解け、活躍することができると思っています。

また、皆さんは、仕事や勉強、遊びに恋にとたくさんの試練にぶつかると思っています。人生の先輩としてアドバイスを申し上げれば「何事も経験」です。経験することによって実績となり、この実績が試練を乗り越えて行く「人生の武器（アイテム）」となります。芸人の明石家さんまさんは「人生は小さくてもいいので必ず目標や夢を持つてください。目標や夢を持つことで迷うことがなくなります。」と言いました。これからの皆さんが進む道は、けっして楽なものではありません。頑張っている人に、頑張れという言葉は良くないと言われますが、頑張りは無限です。思いっきり人生を頑張ってください。最後にになりましたが、三年間、熱

卒業に寄せて



校長
赤津 博久

七十五期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

また、保護者の皆様には、お子様の晴れの門出にあたり、これまでのご苦労へ敬意と祝意を表しますとともに、三年間本校の教育活動にお寄せいただきましたご支援に深く感謝し、心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。

皆さんの高校生活も、新型コロナウイルス感染症対策による制約が多かったものとなってしまいましたが、

途中であきらめて投げ出すこともなく、よく頑張りました。何年か経って振り返った時に「大変なことも多かったけど、楽しい高校生活だった。」と思える三年間であってほしいと思います。

令和六年の年明けは、能登半島地震に始まり、その救援に向かう海上保安庁機と日本航空旅客機との衝突事故、北九州市の繁華街での大規模火災と災害続きとなりました。

自然の恵み豊かな日本ですが、いつどこで何があるかわからない状況でもあります。

皆さんもまた四月からそれぞれの道を歩んでいくこととなりますが、今後様々な出来事に出遭うことでしょう。皆さんの人生が良いものであれば幸いです。たとえ良いことよりも良くないことの方が多いような、なかなか自分の思い通りにいかない人生であったとしても、努力はいつか報われることを信じて、誰かを批判するのではなく、誰かのために力を尽くすことのできる心優しく強い人間であってくださることを期待し、餞の言葉とします。

卒業おめでとう

—担任よりメッセージ—

令和5年度卒業生

普通科117名

総合ビジネス科30名

合計147名



《3A》

担任
山本 豊

業おめでとうございます。

これまで、本校の教育活動にご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

コロナ禍で制約が多い高校生活から始まった学年でしたが、そのなかでも1年生のときには、宿泊研修を川湯温泉で行い、2年生のときにも無事に関西・関東の見学旅行を実施することができました。普段の学校生活では経験できない貴重な体験のなかでの多くの気づきが、新しい世界を見るきっかけになったのではないのでしょうか。そして、高校生活の大切な思い出として残っているのではないのでしょうか。日常繰り返し返される日々の営みとは違う、新鮮な日々は思い出として輝くことが多いと思います。

卒業にあたり、これまで自分の中で想いをめぐらしてきた新たな生活へと一歩を踏み出すこととなります。これまでの学生生活で経験し、学んできたことを活かして、それぞれの生活に臨んでももらいたいと思います。そして、実り多い人生を歩んでもらいたいと思います。

人生を歩んでいくなかには、いろいろな節目のときがあります。この中標津高校を卒業することもその節目の一つだと思います。そのようなときには、自分を信じて、自信を持って歩んでいってほしいと思います。

これから人との出会いは多くあります。それは本当にご縁だと思います。そのご縁を大切に、この人に出会えて良かったと思えるような人との出会いに感謝し、また、出会えて良かったと思ってもらえるような人でいたいものですね。

みなさんと一緒に過ごすことができたこの3年間はとても大切な日々でした。そして、みなさんにお会いできたご縁に心より感謝いたします。ありがとうございました。

みなさまの幸せを心から願っています。

中標津高校第75期生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様におかれましても、お子様のご卒業おめでとうございます。



《3B》

担任
岩城 京佑

す。本日まで本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

卒業生の皆さんが入学した3年前の4月に、私も中標津高校へ転勤してきました。それからは、分からないことだらけの中、進んできました。その中で、多くの生徒の皆さんや保護者の皆様に助けていただきながら、3年間を過ごしてきました。ありがとうございます。

3年間、皆さんの活動を見守る中で、成長している姿を多く見ることができました。授業へ取り組み姿勢が格段に良くなった人、学校祭に前向きに参加するようになった人、体育祭へ苦手ながらも貢献しようとしていた人、進路実現に向けて、悩みながら努力を積み重ねる人など、多くの人の成長を見ることができました。集団としても、学年レクをみんなで盛り上げようとする姿が見られるなど、周りを優しく気遣える学年になったかな、と感じています。そのような成長を近くで見守ることができて、良かったなあと思っています。

これから先は、各自が選んだ道に進むこととなります。楽しいことや苦しいことなど、様々なことが皆さんを待っていることでしょう。1つ1つ丁寧に悩み考えながら、そのとき周囲にいる人と協力しながら、前へ進んでいってほしいと願っています。また、せっかく出会った75期生のメンバーですので、その縁も大切にしたいと思っています。共に3年間を過ごした仲間たちは、道に迷い進めなくなったときに、きっと助けてくれると思います。

今後の皆さんの活躍を、心から祈っています。またどこかで、更なる成長を遂げた皆さんと会えることを楽しみにしています。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、この度はお子様のご卒業おめでとうございます。



《3C》

担任
四十物 毅

75期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、3年間様々な場面で学校の教育活動にご理解とご協力をいただき、無事卒業を迎えられたこと、お祝い申し上げます。

保護者の方々は「先生は子供を育てたことがないから」とも言われ、意見が食い違うことも多々ありました。平日夜遅くや休みの日も、子どもの様子を事細かく報告してくださる様々な場面で、子どもが傷つかないよう、大切に守ろうとする熱い気持ちを感じることができました。「親には勝てないな」と色々な意味で感じました。私も生徒が成長し自立していくため、自分にできることを考え、日々勉強していきたいと思っています。

今回教員生活で初めて担任させて頂き、何かが起こるたびに、何かがその生徒にとって最善なのか、迷い悩む毎日でした。公平・に対応したつもりでも、生徒の求める「平等」とぶつかり合ってしまった、不信任に繋がったこともあったかと思えます。それでも、75期生の皆さんは3年間で多くの成長を見せてくれました。入学してきた時にはまだ小学生のようなあどけない表情で、落ち着かない雰囲気もありましたが、3年間で何人かは「自分の芯を持って我慢のできる」「よく周りを見て周囲に気遣いのできる」素敵な人になりました。大人はほとんどが交わりなないかと思いますが、高校生はこんなにも変化すること、と驚かされました。私も皆さんと過ごした3年間で多くのことを教わりました。本当にありがとうございました。

成長の度合いは人それぞれかと思いますが、147人が良い方に変化してくれたのではないかと思います。そうであって欲しいと願っています。

卒業生の皆さんは、進学者全員、就職する人の半分が家庭から離れます。18年間育ってきた家庭という「殻(から)」から出ていきます。今までは、何かあれば両親や先生や地域の人が守ってくれました。その保護してくれた「殻(シエルター)」がなくなります。これからは自分ですべて決定します。朝起きる起きない、朝ご飯食べる食べない、学校(会社)へ行く行かない、全部自分で決める。だから誰にも文句はいえませんが、変化の激しい社会でもあります。強い心を持って自分の未来を切り開いて欲しいと思います。さらにかっこよく素敵な人になったみなさんに会えるのを楽しみにしています。さようなら。



《3D》

担任(学年主任)
佐藤 大計

中標津高等学校
75期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様、この度はお子様のご卒業おめでとうございます。3年間様々な場面で学年・学級の教育活動に厚い理解とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。

この三年間は、たくさんの方々に支えられた三年間で、充実した日々を送ることができました。進路決定の大事な一年間をやりきれたのは、生徒の皆さん、保護者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

第75期生は、コロナ渦中、コロナ明けと、新型コロナウイルス最終章の年代でした。新型コロナウイルス感染症の第1例目が報告されたのが2019年12月初旬、それから日本でも最初に報告されたのが2020年1月15日でした。そのとき(現在大学4年生)の、卒業式は3年生と教員のみ、教員が保護者席に座った卒業式で保護者が変わって全職員が全力で拍手していたのを思い出されます。その頃75期生は中学2年生、翌年の中学3年生では様々な教育活動が閉ざされ、中学時代をやりきれず終えた生徒たちが多かったことと思います。そのような中学時代を終え、中標津高等学校に入学してくれて75期生は、コロナ渦中で閉ざされていた教育活動が少しずつ開かれてきた学年でした。しかし、それはそれで保護者の皆様にとって、参加の有無など判断が難しい場面があったと推察いたします。そのような中でも、学校の教育活動、学年の判断にご協力していただいたおかげで、75期生はたくましく成長いたしました。

生徒の皆さんは、コロナ前の教育活動に戻っていく学校生活に戸惑い不安を感じたのではないのでしょうか。コロナ前に戻っていくということは毎々が新しいことになっていきます。これまで見てきた先輩方とは違うことが要求され、様々な葛藤があっても不平不満を口にせず協調性を持って上手に対応してくれていました。そして、そのような学校生活でも楽しそうに過ごしている皆さんと一緒にいると笑顔になるとともに、元気をもらうことができました。

最後に、生徒の皆さん。新型コロナウイルス最終章の年代で、コロナ前の平常通りに戻してきた歩みは、苦難があり、葛藤があり、ときには諦めたなど、様々な経験ができたかと思えます。その経験を、これからの長い人生を歩んでいく糧とし、たくましく生きてください。今後の皆さんの活躍を心から祈っております。卒業おめでとう！



《3F》

担任
李家 健

第75期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、総合ビジネス科1期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

この学年は、幸いにもコロナの影響を大きく受けることなく3年間過ごすことができました。入学式、宿泊研修、学校祭、体育大会、就業体験、見学旅行、予餞会と、縮小した部分はあったとはいえ、すべての行事を行うことができました。ウィズコロナを模索しながら行事を実施することができたのは、生徒はもちろん、保護者をはじめとした地域の皆様のおかげと感謝しております。ありがとうございました。

総合ビジネス科1年F組の担任を任されたとき、伝統ある中標津高校の商業新学科を理科の教員が担当しているのか、と正直とても不安でした。さらに、ちょうどこの年に妻が仕事に復帰し、子どもの送迎や(初めての)家事も務めることになり、仕事も家庭も初めて尽くしの一年で、とにかく常に何かに追われていたことを思い出します。しかし、そんなてんやわんやな担任をよそに、F組のみんなは自分たちで問題を解決し、行事や検定にも全力を尽くしてくれました。担任は学級経営のことだけを考え、商業科に関することは商業科の先生方にお任せすることで、うまくバランスが取れていたと思います。

この3年間で、皆さんは間違いなく大きく成長しました。商業科の先生方から様々なことをお願いされ大変なこともあったと思いますが、それら一つ一つの取り組みはこれからの人生においてかけがえのない経験となつて生きてくるでしょう。卒業はゴールではありません。それぞれの進路先で自分の培ってきた力を活かして活躍することが、N高総合ビジネス科のアドバイザーに繋がります。総合ビジネス科1期生の一員として、自分の人生のため、そしてN高の今後の発展のために、たゆまぬ努力を続けてくれると願っています。そして、この3年間で築いた30人の「絆」をこれからも大切に生活していただきたいと思います。

「総合ビジネス科の取り組み」について

商業科主任 金澤 哲也

総合ビジネス科がスタートし三年目。今年完成年度、いよいよ一期生が卒業を迎えます。

令和三年度より、「総合ビジネス科」がスタートし、今年度で完成年度となります。これまでの商業科・事務情報科とは異なり、資格取得だけでなく探究活動にも力をいれた新時代のカリキュラムを実施してまいりました。

●一学年は基礎基本の学習と各検定への取り組みを通し、「学ぶ技術と姿勢」を身に着けます。

一学年は、授業を通して商業の基礎を学び、学んだものを活用し基礎である三級を中心に資格取得に励んでいます。情報処理検定においては全員合格を成し遂げ、商業簿記検定、ビジネス文書検定は二級を取得した生徒もおりました。そのほか、ビジネス計算、簿記検定においても多くの生徒が資格を取得することができています。十二月の課題研究発表会では、各地域のグルメポスターを作成しポスターセッションを行いました。また理科の授業と連携し、知床の観光パンフレットの作成も行っております。

●二学年は、選択科目で希望する分野を伸ばし、探究授業や販売会、就業体験を通し、「向上心や人とのかわり」を学びます。

二学年は、「観光ビジネス」の科目の中で、動画作成などによる「観光甲子園」への参加、七月には毎年恒例の知床ウトロ地区へバスで移動し散策を行う「知床フィールドワーク」、十一月の空港での地元特産品の「販売実習」、今年度は、さらに小樽商科大との「高大連携授業」を実施しました。これは直接大学の教授を定期的に招いて観光について学習する実践的・発展的な授業です。また、旅行会社のJTBと連携し「未来探究ゼミ」を取り組むなど、普段の「教室や教科書では学べない活動」に力を入れております。そのほか、選択科目で、簿記・情報処理・ビジネス文書・ビジネス計算などの、一級や

二級検定に向けた科目を、進路に合わせて選択できるようにしております。

今年度は、既に二年生の時点で、三種目一級が三名も出てきております。また、十一月のインターンシップでは総合ビジネス科の二年生全員が二日間の日程で町内の各事業所で職場体験を行っております。そして、十二月の課題研究発表会では、商品開発を選択した生徒による販売会を実施しました。女子の班では、企業と連携し生徒が実際の調理も携わった「スコーン」を販売し、約二百個あった商品が十五分で完売しました。男子の班では、そばの種から脱穀・製粉・調理までを研究して取り組んだ「手打ちそば」を販売し、保護者をはじめ一般の方々にも大変喜んでいただきました。

●三学年は、課題研究を通し、地域での「探究活動」を行い、各種の検定一級を複数取得する「三種目一級取得」を目標にしています。

三学年では、十二月に「課題研究発表会」を行います。例年より単位数を増やし、町内の事業所の方々の協力のおかげと生徒の頑張りにより、大変すばらしい発表会となりました。三年生の堂々とした発表に一・二年生も大変刺激を受けました。自分が生まれ育った地域の課題を考え、自ら企業に足を運び、自分たちにできることをまとめる。そして大勢の前で発表し伝える「課題研究発表会」は、新しい総合ビジネス科の探究活動の「集大成」となります。

●全商一級三種目以上取得者 八名合格！

全商検定一級を三種目以上取得した者が、昨年度の二学科での六名を大きく上回り、八名取得することができました。内訳は三種目が四名、四種目が三名、六種目が一名です。これは、釧路・根室地区で最多の人数になります。

中でも「六種目一級取得」は、昨年に引き続き、中標津高校で三人目となる大変素晴らしい記録です。本校商業科はこれからも生徒のニーズに応え、地域に貢献できる人材を育てていきます。

商業科表彰

専門高等学校等御下賜金記念
優良卒業生表彰

3年F組 佐井 陽向

全国商業高等学校校長協会卒業生
成績優秀者表彰

3年F組 倉内 沙彩

全国商業高等学校協会主催
実務検定6種目1級合格者表彰

3年F組 倉内 沙彩

全国商業高等学校協会主催
実務検定4種目1級合格者表彰

3年F組 佐井 陽向

多田 優作

全国商業高等学校協会主催
実務検定3種目1級合格者表彰

3年F組 桑島 天

柳田 栞
清水 依
谷 琴

皆勤賞生徒 6名

A組 池田 未来

西山 花菜

B組 稲川 礼

寿見 咲人

C組 小野瀬 叶

D組 白戸 零二

F組 寿見 咲人

日下部 陽織

研練褒賞

3年A組

日下部 陽織

日下部 陽織

日下部 陽織

同窓会クラス幹事

第七十五期卒業生 (○印は代議員)

A組	有賀 陽菜、藤原 凌玖	D組	○阿部 優芽、菅井 優也
B組	大山 純生、中塚 雄琉	F組	桶谷 吹樹、柴田 穂夏
C組	西田 莉那、堀 共吾		